

## 先人の思いを

## ―開港20周年を迎えて

花川南地区、札幌市側に隣接する紅葉山。縄文中期頃からの営みが地に眠る処、藤女子大学のあたりに古の面影を残している。この地で香煙なびく了恵寺境内に横田庄八氏※の『六畜謝恩碑』が建立されている。「ふる里の家の庭べに相寄りし深きえにしを思い出でつつ」▼『石狩町誌』下巻に同氏の紹介と、「故郷石狩町に寄せる思いと眼ざしは温かく」と記されている。同氏の歌集『石狩湾新港と遮断緑地』から、「新港をめぐる利害を思はなく夕べなごめる海に向へり」後背の無人地帯にはじめての工場建てり地を広く占め」▼続いて第一船入港にあたり、「石狩の浅き砂浜に良港を築かむとして経にし十年」「土地を売り農をやめしは開港を日にけに待てり殊に老いしは」と、新港開発への複雑な思いを伺い知ることが出来る。しかしこの時の決断は、現在国際貿易港として開港20周年へと至り、まちは大きく変わった。未来の見えづらい大都市にあつて、多少なりとも元気を呼ぶまちづくりを目指している我市は、この歌の温かさで厳しさを今、かみしめなければならない。(市長)

※横田庄八：明治38年花畔村に生まれる。昭和5年より教壇に立ち、釧路、札幌北斗の高校長歴任。歌歴は「原始林」「橄欖」同人。

# 広告